

文章完成法における家族イメージの表現内容の分類

荒 井 真太郎

〔抄 録〕

本研究では、文章完成法（SCT）における、家族に関する項目で表現される家族イメージを検討し、その内容を分類することを試みた。78名の既婚群と132名の未婚群に対し、筆者が作成した家族イメージSCTへの回答を求めた。家族イメージSCTは①家族・家庭と自己との関係、②家族関係・構造、③家族成員の役割・イメージ、④家族の意味・価値観、⑤家族に関する時間的展望、⑥家族の適応性、⑦家族の凝集性、⑧家族の同一性の次元に関わる23項目から構成され、それぞれへの回答内容を分類し、既婚群、未婚群ごとにカテゴリーの出現頻度を分析した。その結果、各次元各項目における回答分類の問題点および、既婚群と未婚群における家族イメージの特徴が明らかにされた。

キーワード：家族イメージ、文章完成法（SCT）、既婚者、未婚者

I. 問題

1. 家族イメージの次元

本研究では、客観的な家族のあり方の報告と観察ではなく、個人の持つ主観的な家族イメージ、またその表現に焦点を当てること、つまり、家族の成員自身の目から見た家族の姿を把握しようとするアプローチを試みる。その際、家族イメージの多様な側面をどのような形であれば表現できるのか、また表現内容の意味を把握できるのかを考える必要がある。

家族の機能的側面に関し、Persons & Bales (1956) の「子どもの基礎的社会化」と「成人のパーソナリティの安定化」をはじめとして様々な次元について言及されている。Olson (1979) は、家族機能を表す概念を整理し、家族機能に関して凝集性と適応性という概念のスペクトルに位置づけられることを指摘している。凝集性は家族成員が他の人に対するときの情緒的絆と定義され、適応性は状況のストレスの力と構造、役割関係、役割のルールを変化させる夫婦・家族システムの能力とされている（渡辺、1989）。

Beavers & Voeller (1983) は臨床面接より家族機能の5次元（家族の構造、家族神話、対話の効率性、自律性、情動性）をモデル化している。また、Bloom (1985) の家族機能自己記述尺度では、結合性・表現性・葛藤・知的文化的態度・活動的レクリエーションの態度・宗教

の強調・秩序・家族社交性・外的統制位置・家族理想化・遊離性・民主的家族形態・放任的家族形態・権威的家族形態・纏綿性の各次元を挙げている。渡辺は Bloom の尺度をもとに、因子分析より家族内のまとまりを示す「凝集性」、家族成員が外界と交流を持つ「社会的活動性」、家族内で締め付けられる力を表す「拘束性」の3因子を導いている。

これまでの家族機能の研究で示された様々な次元を個人の抱く家族イメージに関連付けてみると、主として、自己と所属する家族との関係、また家族の成員同士の関係、あるいはそのコミュニケーション様態を個人がどう認知しているかという点に表れると考えられる。さらに、家族としての活動、家族全体および成員の適応状態をどう認知しているか、家族全体や成員に対する情緒的意味づけという点にも関わっているであろう。

個人の抱く内的な家族イメージの側面を重視する観点として、馬場（1990）は、家族成員同士で様々な種類の感情、パーソナリティ、役割の表現の交流があり、これらの力動的な相互作用の中で、自己像を始め、家族像、両親像、夫婦像、同胞像をも含む個人のパーソナリティが形成されてゆくとしている。これらは、家族イメージにおいて、家族成員と自己との関係（相互作用）ならびに、家族の成員像という側面の重要性を示すものである。また馬場は、原家族のイメージは、婚姻家族の生活、あるいは家族成員同士の相互関係に影響を及ぼすものであることを指摘している。この影響は、家族と自己との関係という側面とともに、家族との生活に対する主観的意味づけや価値観という側面に表れてくると考えられる。

Beavers & Voeller が挙げた家族の構造の内的側面に関連して、河合（1980）は、家族は夫婦という血のつながりのない横の関係と親子という血のつながりのある縦の関係が交錯する構造を持つことを指摘している。夫婦とは、一定年齢に達した男女が法的に認められた形で結婚することにより成立する関係で、そもそも家族が成立するには、結婚して夫婦となることが、前提である。従って、結婚と夫婦は、家族イメージの基盤を構成する概念であると言える。一方縦の関係である親子に関して、生物学的意味での親、または養育者としての心理社会的意味での親が全ての個人に存在し、親による養育、子育ては、家族を構成するための重要な要素となる。また、家族を構成する親子関係＝縦のつながりは、一代に止まらず、何世代にもつながるが、これは「先祖を祀る」ことや血縁に価値が置かれる文化において特に重視される。このように、結婚、夫婦、親子、養育、世代間のつながりは、家族の構造に関連している。

また Beavers & Voeller は、家族機能として「家族神話」を挙げているが、家族神話とは、世代間を通じて引き継がれ、家族成員が共有するがその家族以外の人間には理解されづらく、意識と無意識あるいは現実とファンタジーの両面に関わる概念である。この概念は個人における、自我同一性の概念（Erikson、1959）に近似していると筆者は考える。そこで、家族イメージに関して、家族としての同一性、家族についてのファンタジー（願望・理想）の次元も本研究においては取り上げたい。

2. 研究方法と研究対象

家族心理学における家族へのアプローチ法としては、個人の心理アセスメントを準用する形をとる場合が多い。質問紙法では、親子関係診断検査（東ほか、2002）や、Olson らの家族凝集性－適応性評価尺度（Olson, Russell & Sprenkle, 1983；立木、1999）、Bloom の家族機能自己記述尺度のように様々な次元において、客観的・量的に諸特性の高低を測定することにより家族のあり方を捉えようとするアプローチがなされてきている。一方、家族ロールシャッハ法（鈴木、1971）などの投影法、動的家族描画法（日比、1986；加藤、1986；河村、2002）などの描画法、図式投影法（水島・岡堂、1980；亀口、2001、）等においては、無意識的次元、質的次元、感覚的次元における家族イメージを捉えようとする試みがなされている。

青年期の家族に関わる時間的展望について、五十嵐は（1989）文章完成法（SCT）によって青年期群を調査している。五十嵐によると、青年期には、家族全体についての過去にふれることは少ないが、家族との印象深い思い出が記述される傾向が見られ、現在の家族についてはほとんど関心が向かず、もっぱら自分自身のことに関心が向けられるという。五十嵐は青年期の家族イメージを明らかにしているが、既婚の成人群と比較することによって、家族イメージの心理発達の意味を明らかにする必要がある。

一方、既婚者を対象とした家族に関わる研究としては、既婚女性における家族内ケアや夫婦関係（平山、1999、2002）、既婚男性の父親役割（尾形・宮下、2000；平田、2003）など、妻・夫、あるいは母・父という家族内の立場における役割、また家族との関係に焦点付けられている傾向がある。このような家族内の立場に焦点付ける場合は、既婚者のみを対象とした研究となり、未婚者と既婚者における家族イメージの違いや発達的变化を検討することが困難である。

そこで本研究では、SCT を用いることにより、原家族（定位家族）のみの生活経験を有する未婚者と結婚家族（生殖家族）の生活経験を有する既婚者の両者を対象として、共通して用いることができる家族イメージに関する研究方法の開発を試みたいと考える。つまり、個人の家族イメージの意味を考察するための基礎的なデータ収集を行うとともに、家族イメージを表現するためのアプローチの方法、並びに家族イメージの表現内容を理解するための観点を検討する。

3. 目的

- ①家族イメージの多様な次元を捉えるための方法として、文章完成法（SCT）の質問紙を作成する。SCT の質問紙において、家族イメージを構成する次元に関わる回答項目を設定し、回答内容からその項目の有効性を検討する。
- ② SCT の各項目への回答内容を分類し、家族イメージの各次元の意味構造を検討する。
- ③原家族との関わりのみを経験している青年の未婚者と結婚家族を形成する経験をしている成人の既婚者における、各項目に対する分類された回答の出現頻度から、未婚者と既婚者にお

ける家族イメージを比較検討する。

Ⅱ．方法

1. 調査協力者：

- ①成人の既婚者 78 名（女性 56 名、男性 22 名；平均年齢 49.7 歳、範囲 29 歳～60 歳、標準偏差 8.76）。既婚者として、関西地方の A 市の住民基本台帳と住宅地図を基にランダムに抽出した地区の家庭に個別に依頼し、了承を得た場合に調査用紙を配布し、後日回収した。調査協力者の社会的属性として、会社員 14 名、パート・アルバイト 20 名、自営業 4 名、公務員 7 名、専業主婦 23 名、無職・その他 10 名であった。協力者のうち、夫婦共に回収したケースが、8 組 16 名あった。既婚者の家庭で養育した子どもの人数の平均は 2.16 名、標準偏差 0.79、0 名～4 名の範囲であった。なお、養育した子どもの人数が 0 名（夫婦のみの家族）である協力者は 3 名であった。協力者のうち、離婚、死別により配偶者が不在である者はなかった。
- ②青年の未婚者 132 名（女性 82 名、男性 50 名、平均年齢 19.5 歳、範囲 18 歳～22 歳、標準偏差 0.98）。未婚者として、関西の私立大学の大学生に対し、講義時間を利用して配布、回収した。このうち、家族と同居している者は 47 名、家族と別居（下宿）している者は 85 名であった。家族の中で、第一子である者は 62 名、第二子である者は 50 名、第三子である者は 18 名、第四子である者は 2 名であった。協力者で、離婚・死別等の事情により、父親が不在と回答した者は 8 名で、母親が不在であったのは 2 名であった。未婚の調査協力者の家族で、協力者自身を含めた家族におけるきょうだいの人数の平均は 2.45 名、標準偏差 0.81、1 名～5 名の範囲であった。

2. 家族イメージに関する SCT：家族イメージを表現するための方法として、文章完成法による回答項目を作成した。項目については精研式文章完成法における家族に関する項目を参考とした他、筆者が新たに項目を付け加えた。予備的段階として作成した項目から、大学生、一般の成人を対象とした予備的調査を繰り返し、回答が重複する可能性が少ないこと、既婚者、未婚者ともに無理なく回答できること、先行研究に示された家族イメージの次元に関わる項目となることを考慮して、回答項目を次の通りにまとめた。

- ・家族・家庭と自己との関係（4 項目）：「家の人はわたしに対して」、「わたしは家の人に対して」、「家の外にいるとき」、「家族のためにわたしは」
- ・家族関係・構造（4 項目）：「結婚」「夫婦」、「子育て」、「わたしの先祖」
- ・家族成員の役割・イメージ（4 項目）：「わたしの親」、「妻」、「夫（おと）」、「わたしのきょうだい」（注：精研式文章完成法の項目である「わたしの母（父）」とせずに、「わたしの親」としたのは、短文を記述する SCT の場合、前者の項目では、具体的または、個人的な事

実の記述に止まる傾向が強く、母や父に対する感情やイメージ、親の役割に関する記述の割合が少なくなることが予想されたためである。)

- ・ 家族の意味・価値観 (3項目): 「わたしにとって家族は」、「わたしの家族にとって大切なのは」、「もし、わたしの家族が」
- ・ 家族に関する時間的展望 (2項目): 「わたしの家族は、今後」、「今まで、わたしの家族は」
- ・ 家族の適応性 (2項目): 「家のくらし」、「わたしの家族が困っているのは」
- ・ 家族の凝集性 (2項目): 「家族と過ごす時間」、「家族でいっしょに」
- ・ 家族の同一性 (2項目): 「わたしの家族はみんな」、「わたしの家族のことを人は」

以上の計 23 項目を、ランダムな順序となるように調査用紙に配置した。

教示文として「以下に、家族などについての書きかけの文章が並んでいます。それをみて、あなたの頭に浮かんできたことを、それにつづけて書き、その文章を完成させてください。」と示した後、例文を呈示し、さらに「このようにあなたの思うままに書いて下さい。全部で 23 の文章があります。すべての文章を完成させるように順に記入してください。」と示した。

3. 調査時期：2003 年 8 月～2004 年 9 月

Ⅲ. 結果

1. 分析方法：各項目についての回答内容の傾向を分析するため、カテゴリーに分類した。カテゴリー化の手順として、KJ 法 (川喜多、1970) を参考として、類似していると考えられる回答をひとまとめとし、グループを編成した。次に、最初とは異なる観点から類似しているグループをひとまとめとして新たなグループを編成する作業を繰り返した。それぞれのグループにタイトルを付け、カテゴリーを編成した。また、カテゴリー同士の親近性、対照性という点で関連づけられる場合を検討し、複数のカテゴリーを関連付けられる場合に、上位カテゴリーとして編成した。この結果、ある項目に対する 1 つの回答であっても、複数のカテゴリーに重複して含まれる回答があり、逆に回答によっては、1 つのカテゴリーにのみ含まれる回答もあった。

カテゴリーの設定に関し、カテゴリーに含まれる回答数が最低でも 4 以上 (全調査協力者の約 2%) となること、また、それを下回る回答数である場合は、「その他」のカテゴリーの回答とした (注：各項目で共通するカテゴリーの「願望」については、回答数が 4 未満であってもカテゴリー化した)。回答の分類過程で、回答内容ではなく、形式的側面 (願望:「～したい」、状況の変化や頻度:「時々～」「いつも～」、曖昧表現「多分～」「～らしい」、など) でグループ分けされたカテゴリーを付加的カテゴリーとした。項目ごとのカテゴリー数は、項目間のバランスを考慮し、上位カテゴリーと下位カテゴリーを合わせて 6～13 カテゴリーに設定した。

2. 家族・家庭と自己との関係（表1）

①項目：「家の人はわたしに対して」・項目：「わたしは家の人に対して」

自己と家族との関係に関して、主体と対象を逆にした項目を設定し、それぞれの回答内容の分類は、共通するカテゴリーによってまとめられるよう意図した。両項目ともほぼ同様のカテゴリーに分類された。両項目とも上位カテゴリーとして、7カテゴリーに分類された（注：表中の「無記入」はカテゴリーに含めない）。上位カテゴリーの「関心のあり方」は、さらに下位カテゴリーに分類された。付加のカテゴリーとして、自己や家族の態度の記述が両価的、曖昧、不定、不明である回答を、「両価性・不定」というカテゴリーを設定して分類した。

「わたしは家の人に対して」の項目の「関心のあり方」の下位カテゴリーでは「不満・否定的態度」「無関心・無為」「役割・責任」のカテゴリーを設定した。不満を表す回答については、「家の人はわたしに対して」の項目では、「無関心・不満」としてカテゴリーにまとめた。これは、自己から家族に対する無関心・無為（「別に何にもない」など）の回答は、不満や否定的感情を表しているとは必ずしも言えないと考えたためである。

既婚群、未婚群を合わせた回答数の割合としては、両項目ともに、「支持・受容・肯定的態度」に分類される回答の比率が「家の人はわたしに対して」項目では40%以上、「わたしは家の人に対して」項目では30%以上であった。（注：回答数の多いカテゴリーの目安として20%を超える場合とした。）また、「家の人はわたしに対して」項目では、「両価性・不定」が20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の回答数の比率を χ^2 検定により比較した。（注：セルの度数が10未満の場合は全てイエーツの補正を行った。）その結果、「わたしは家の人に対して」の項目で、「支持・受容・肯定的態度」「非難・厳格な態度」「願望」は既婚群の方が高く、「依存・期待」「不満・否定的態度」は未婚群の方が高かった。

②項目：「家の外にいるとき」

上位カテゴリーは、6カテゴリーに分類され、「体験の特性」「変化」「活動」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「解放感」「変化・意識的努力」の回答数の割合が約20%以上であった。

既婚群と未婚群の比較では、「複数の活動」「家とのつながり」については、既婚群の方が未婚群よりも比率が高かった。

③項目：「家族のためにわたしは」

上位カテゴリーは5カテゴリーに分類され、「尽力」は、さらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「全般的尽力の意思」「役割行動・経済的援助」「願望」の回答数の割合が20%以上であった。

既婚群と未婚群の比較では、「不定・無為」については、未婚群の方が既婚群よりも比率が高かった。

3. 家族関係・構造（表2）

①項目：「結婚」

上位カテゴリーは5カテゴリーに分類され、「結婚行為」「結婚生活の評価」「願望」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「結婚願望」の回答が30%以上であった。

既婚群と未婚群の比較では、「身内・他者の結婚」「結婚の意味・概念」「中立・両価的评价」「肯定的評価」「結婚生活歴」については既婚群の方が未婚群よりも比率が高かった。「結婚願望」「結婚の否定」は未婚群の方が既婚群よりも比率が高かった。

②項目：「夫婦」

上位カテゴリーは、6カテゴリーに分類され、「関係の評価」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「肯定的関係」は50%以上、「関係の意味」は30%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「生活状況」は、既婚群の方が未婚群よりも、回答の比率が高かった。

③項目：「子育て」

上位カテゴリーは4カテゴリーに分類され、「子育て体験」「子どもの成長」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「困難・苦労」は、40%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「経験自体」「子どもの育ち」「子孫の育ち」は、既婚群の方が未婚群よりも回答の比率が高かった。「困難・苦労」「願望」は、未婚群の方が既婚群よりも回答の比率が高かった。

④項目：「わたしの先祖」

上位カテゴリーは7カテゴリーに分類され、「属性・評価」「存在」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「社会的・身体的属性」「不明」は、20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「情緒的意味」は、既婚群の方が未婚群よりも回答の比率が高かった。「社会的・身体的属性」「想像・曖昧さ」「その他」は未婚群の方が高かった。

4. 家族成員の役割・イメージ（表3）

①項目：「わたしの親」

上位カテゴリーは、4カテゴリーに分類され、「属性・役割」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「関係」は30%以上、「年齢・生死」「親の性格・属性」が20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「年齢・生死」「願望」は既婚群の方が回答の比率が高かった。「親の性格・属性」は未婚群の方が比率が高かった。

表2 家族の関係・構造項目の回答の分類と度数 (%)

上位カテゴリ	下位カテゴリ	項目:「結婚」	回答例	回答数		%	
				既婚群	未婚群	既婚群	未婚群
結婚行為	結婚の選択		はしてもしなくても本人が良いと思う人生を選ぶことが大事である・はあまり早くも遅くもない方がよい	8	20	10.3	15.2
	身内・他者の結婚		子供が早くしてほしい・長男の事が一番きにかかると・娘の結婚がまだ	8	0	10.3	0.0
	結婚による変化		は人生の新たなスタートラインだと思ふ・してからでは独身のときは生活が一変した	8	6	10.3	4.5
	結婚の意味・概念		は紙切れ1枚で決まってしまうからおかしい・は生活の安定と心の安心・赤い糸	11	5	14.1	3.8
	中立・両面的評価		は楽しい事もあり腹の立つ事もありいろんな事のくり返し・苦楽を共にするもの	17	2	21.8	1.5
結婚生活の評価	肯定的評価		して良かったです・は遅かったが幸せです・は楽しく仲良く	12	6	15.4	4.5
	否定的評価		は人生の墓場です・は取り返しのつかないこと・は不自由	0	8	0.0	6.1
	結婚願望		はいずれはしたい・はしたくない・はしんどいかもしれないが早い方が良い	5	72	6.4	54.5
結婚生活歴 その他	結婚の否定		はあまりしたくない・なるべくしたくない・したくない	0	15	0.0	11.4
	—		もうすぐ25年です・昭和45年万博の年・はや15年。そろそろ子供も結婚を考える時期になった	12	0	15.4	0.0
	—		はしていない・式は儀式で行った・サギにはあいがない	2	6	2.6	4.5
無記入			—	0	0	0.0	0.0
項目:「夫婦」							
関係の評価	肯定的関係		仲は良い・円満・は同志という意識でいる	41	73	52.6	55.3
	心理的距離・否定的評価		きよりがある・かかわりがあまりない・仲わるい	12	23	15.4	17.4
	—		妻主軸。我をばってばよくない・ボランティアの気持ちがあれば一緒にいれませんが・は良いものだ	24	53	30.8	40.2
	生活状況		として33年間は経ちました・元気でがんばっています・でよく話している	20	8	25.6	6.1
	不明		とはどんなものだろう・わからない。私はこの言葉好きではありません・になると愛情は冷めるのだろうか	5	7	6.4	5.3
願望※	—		仲良く過ごしたい・で旅行に行きたい・でいたい。子供の嫁だけではない	9	16	11.5	12.1
	—		同姓・ぜんざいはこの前食べたよ・岩を修学旅行で見た	0	8	0.0	6.1
	無記入		—	0	2	0.0	1.5
項目:「子育て」							
子育て体験	困難・苦勞		は永遠の悩み・は大変な仕事です・は本当にむずかしい	25	71	32.1	53.8
	経験自体		只今まだ中ですが・そろそろおわりのようです・したことない	24	17	30.8	12.9
	子育てのスタイル		は家族が助けあってするものです・の付けはメリハリを付けるようにしている・は上手になかった	14	25	17.9	18.9
	面白さ・楽しさ		は楽しくおもしろい・は楽しい・は好きです	14	23	17.9	17.4
	意味		は勉強の連続である・はとても難い仕事です・は本切だ	13	17	16.7	12.9
子どもの成長	子どもの育ち		は子供の成長がみれるところこひだ・私の代は息子二人大学まで出した・自分の望んだ通り育ってくれた	13	3	16.7	2.3
	子供の育ち		はもう卒業しましたが今は孫の面倒をみています・の手伝いが出来るのを楽しみにしています	4	0	5.1	0.0
	—		にそっせんで参加できるような父になりたい・は妻が育てたかった・をした	2	15	2.6	11.4
願望※	—		ノイローゼ・時代・には興味がありません	0	6	0.0	4.5
	—		—	1	1	1.3	0.8
	無記入		—				
項目:「わたしの先祖」							
属性・評価	社会的・身体的属性		は厳しそうなお顔が多い・は商人です・九州の田舎で育った	17	47	21.8	35.6
	尊敬・偉大さ		は偉大な方もいらっしゃると思います・は立派だ・はわたしたちにとってほこりである	12	25	15.4	18.9
	祖父母・人数への言及		は祖母以外あまり知らない・はおばあちゃんのみ・はたくさんいる	9	7	11.5	5.3
	死・墓への言及		の墓はいなかにある・両親早く亡くしているからよくわからない・はフィリピンで死にました	6	6	7.7	4.5
	—		はわたしのルーツ・を大切に思っています・は私を守ってくれている	25	17	32.1	12.9
情緒の意味	—		はらない・あまり考えたことがない・はどんな人だったのかしら	29	38	37.2	28.8
	—		たぶんえらい人・は農民だろう・はすごい人だったらしい	1	26	1.3	19.7
	—		を大切にしていきたい・せめて祖父の顔見たい・は武士であってほしいんやけど違うんやろうなあ…	8	4	10.3	3.0
願望※	—		はかえるなど・は娘・はラストサムライ	0	9	0.0	6.8
	—		—	1	1	1.3	0.8
	無記入		—				

※付加のカテゴリ

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

表3 家族成員の役割・イメージ項目の回答の分類と度数（%）

上位カテゴリ	下位カテゴリ	項目：「わたしの親」	回答数				%
			既婚群	未婚群	既婚群	未婚群	
役割・属性	年齢・生死	は年老いていく・はまだ生きていて・父は戦死。その後母はがんばってくれたと思います	45	6	57.7	4.5	**
	親役割・生活	は女手1つで子供3人を育ててくれました・は母一人他県で暮らしている	12	25	15.4	18.9	**
	親の性格・属性	はとても良い人です・偉大な人・金にうるさい	9	47	11.5	35.6	**
	関係	にはいろいろなお世話になっています・の存在がありがたい・は口うるさい	32	47	41.0	35.6	**
願望※	—	関わりたくない・もう亡くなっているのもっと孝行すればよかったと思う	14	3	17.9	2.3	**
	—	は2人いる・の親は私にとっておじいちゃんだ・心	0	8	0.0	6.1	
	—	—	0	1	0.0	0.8	
項目：「妻」							
役割	妻役割	は専業主婦です・は丈夫で長持ち明るいのが一番・は家事をするもの	40	50	51.3	37.9	**
	評価	は…私は妻です。あまり良い妻ではないと思う・としての私はよくがんばっていると思う。時間がたりない位いそがしい	20	2	25.6	1.5	**
	属性・状況	は背が高い・気が強いしっかりもの・は共同経営者である	16	36	20.5	27.3	**
	存在	は一年前に死亡・はいない・はいずれ欲しいかな…	1	37	1.3	28.0	**
夫婦関係	—	いつも協力はばげましあって・には感謝している・は大切にしたい	13	10	16.7	7.6	*
	不明	の役割は何でしょう？・として私は何点だろう？・は必要かはわからない	4	3	5.1	2.3	
願望※	—	になりたい・でいたい・として思いやりを大切にしたい	7	37	9.0	28.0	**
	—	と夫・結婚できるのだろうか…・です	0	6	0.0	4.5	
その他	—	—	8	6	10.3	4.5	
	無記入	—					
項目：「夫（おとこ）」							
役割	夫役割	とは家族に責任のあるポジションである・は文字通り家族の大黒柱です	30	71	38.5	53.8	*
	評価	いしょうけんめいがんばって仕事に行ってます・としていけるのだろうかと思う	8	5	10.3	3.8	**
	属性・状況	わけのわからない人・は休日には必ず少年野球に行っています・はタバコを吸わない	38	28	48.7	21.2	**
	夫婦関係	いい人ですがいいしよににいるのは疲れる・は大好き・は頼りがいのある人がいい	29	43	37.2	32.6	*
存在	—	はいません・でいて欲しい・健康でながいきしてほしい	2	16	2.6	12.1	*
	不明	は？よくわからない・になれるか？・はだれがなるのか？	0	6	0.0	4.5	
願望※	—	は頼りになるステキな人がいい・もう少しすきになりたい・という役割を頑張りたい	7	44	9.0	33.3	**
	—	が転んだ「オット」・です・はしらない	0	9	0.0	6.8	*
その他	—	—	1	6	1.3	4.5	
	無記入	—					
項目：「わたしのきょうだい」							
属性・状況	きょうだいの生活	は遠距離に住んでいます・はそれぞれの家庭を大事にしている・は忙しそうです	23	27	29.5	20.5	
	きょうだいの性格・属性	は顔も性格も各々異なる・は太っている・は智恵じめだ	5	22	6.4	16.7	
	存在	は2人いる・は4人で健在である・みな元気です	45	63	57.7	47.7	
	関係	相談相手・は妹一人なのでいろいろ話をする・は私にきびしい	21	32	26.9	24.2	
不明	—	になりたい人はいるか？・はみんなうまくやっているだろうか	1	1	1.3	0.8	
	—	には最生きて欲しい・は4人姉妹だから男がほしい・できれば欲しいです	3	3	3.8	2.3	
願望※	—	—	0	0	0.0	0.0	
	無記入	—					

※付加的カテゴリ

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

②項目：「妻」・「夫（おと）」

「妻」「夫」項目ともに、上位カテゴリーは、7カテゴリーに分類され「役割」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「妻」「夫」項目ともに、「妻（夫）役割」は30%以上、「属性・状況」は20%以上の回答数であった。「夫」項目でのみ、「夫婦関係」が30%以上、「願望」が20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「存在」「願望」はともに、未婚群の方が回答の比率が高かった。

「妻」項目では、「評価」「夫婦関係」は既婚群の方が回答の比率が高かった。「夫」項目では、「属性・状況」は既婚群の方が回答の比率が高く、「夫役割」「その他」は未婚群の方が回答の比率が高かった。

③項目：「わたしのきょうだい」

上位カテゴリーは5カテゴリーに分類され、「属性」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「存在」は40%以上、「きょうだいの生活」「関係」は20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群で、回答の比率の差は見られなかった。

5. 家族の意味・価値観（表4）

①項目：「わたしにとって家族は」

上位カテゴリーは、4カテゴリーに分類され、「価値」「意味・体験」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「重要性」のカテゴリーが70%以上の回答数となり、他のカテゴリーは全て20%以下の回答数であった。

既婚群と未婚群で、回答の比率の差は見られなかった。

②項目：「わたしの家族にとって大切なのは」

上位カテゴリーは3カテゴリーに分類され、「特定の価値」「家族の存在」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「関係性」は30%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「身体・健康」は既婚群の方が未婚群よりも回答の比率が高く、「物質・時間」は未婚群の方が回答の比率が高かった。

③項目：「もし、わたしの家族が」

上位カテゴリーは、4カテゴリーに分類され、「否定的事態」「中立・肯定的事態」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「否定的事態」の「当惑・不明」および「予想される結果」は20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「否定的事態」の「予想される結果」は、未婚群の方が回答の比率が高かった。

表 4 家族の意味・価値観項目の回答の分類と度数（%）

項目：「わたしにとって家族は」		回答数		%	
上位カテゴリ	下位カテゴリ	既婚群	未婚群	既婚群	未婚群
価値	重要性	やはり一番大切です・世界中で一番信頼できる・宝である			
	無価値	66	101	84.6	76.5
	関係性	0	6	0.0	4.5
意味・体験	負担	11	14	14.1	10.6
	—	4	4	5.1	3.0
	—	1	6	1.3	4.5
不明・不定	—	0	2	0.0	1.5
	—	1	1	1.3	0.8
	—				
項目：「わたしの家族にとって大切なのは」					
特定の価値	関係性	35	46	44.9	34.8
	身体・健康	27	12	34.6	9.1
	精神的態度	10	11	12.8	8.3
	物質・時間	5	26	6.4	19.7
家族の存在	家族・生活全体	6	16	7.7	12.1
	メンバーの存在	3	10	3.8	7.6
	—	3	12	3.8	9.1
不明	—	2	3	2.6	2.3
項目：「もし、わたしの家族が」					
否定的事態	当惑・不明	28	35	35.9	26.5
	回復への努力	13	12	16.7	9.1
	予想される結果	8	42	10.3	31.8
	予想される結果	15	22	19.2	16.7
中立・肯定的事態	当惑・不明	7	11	9.0	8.3
	—	2	2	2.6	1.5
	—	0	4	0.0	3.0
無記入	—	8	9	10.3	6.8

※付加的カテゴリ

*p < .05 **p < .01 ***p < .001

6. 家族に関する時間的展望 (表5)

①項目:「わたしの家族は、今後」

上位カテゴリーは、4カテゴリーに分類され、全4カテゴリーがさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「縮小的変化」は20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「肯定的感情」は、既婚群の方が回答の比率が高かった。

②項目:「今まで、わたしの家族は」

上位カテゴリーは、5カテゴリーに分類され、「全般的評価」「家族関係」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ20%以上の回答数となったカテゴリーはなかった。

既婚群と未婚群の比較では、「幸福・順調」「平穏・無事」とともに既婚群の方が回答の比率が高かった。

7. 家族の適応性 (表6)

①項目:「家の暮らし」

上位カテゴリーは8カテゴリーに分類され「生活の評価」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「安定・快適」は40%以上、「不安・困苦」は20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「否定」「常時・変化」は既婚群の方が回答の比率が高かった。「情緒的意味」は、未婚群の方が回答の比率が高かった。

②項目:「わたしの家族が困っているのは」

上位カテゴリーは5カテゴリーに分類され、「生活環境」「家族自体」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「経済面」は30%以上、「家族成員(ペットを含む)」「問題の存在」は20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「問題の存在」は既婚群の方が比率が高く、「経済面」では未婚群の方が比率が高かった。

8. 家族の凝集性 (表7)

①項目:「家族と過ごす時間」

上位カテゴリーは、4カテゴリーに分類され、「時間の有無」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「体験・意味」は40%以上、「時間の持てなさ」は30%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「個々人の時間」「過ごし方」は既婚群の方が回答の比率が高かった。

②項目:「家族でいっしょに」

表 5 家族に関する時間的展望項目の回答の分類と度数 (%)

項目：「わたしの家族は、今後」		回答数		%	
上位カテゴリー	下位カテゴリー	回答例	既婚群	未婚群	既婚群
変化	細小的変化	少数化・子どもが独立する・ばらばらになる	19	34	24.4
	変化（不定・不明）	わからない・疑問・変わるだろう	10	16	12.8
	拡大的変化	双子出産したことで大忙しになるでしょう・増えていくでしょう・増えつつけるだろう	7	7	9.0
	生活様式の変化	年金生活・たくさんさんの思い出作る・お金がいる	5	4	6.4
	高齢化	老いていくので老後が心配・老後生活に入る・除々に老いていき死んでいきます	2	4	2.6
継続	通常状態の継続	普通・何の問題もなく生活できる・それぞれの仕事をし続ける	12	26	15.4
	良い状態の継続	仲良く暮らさうだろう・も楽しく暮らしていくだろう・も仲良くやってゆきたい	7	12	9.0
感情	否定的感情	年金生活になるのにこの先色々不安です・弟の進学などでお金の面の苦労が増えそうだと なっていくのか楽しみである・の成長が楽しみです・楽しみがある	8	11	10.3
	肯定的感情	いつまでも健康であって欲しい・も仲良くやってゆきたい・幸せに暮さうだろう	4	0	5.1
願望	良い状態への願望	娘、息子達も独立（結婚）してほしい・それぞれの家庭を持っているので大事に育てて欲しい	16	22	20.5
	行為の願望	—	8	7	10.3
無記入	—	—	2	0	2.6
項目：「今まで、わたしの家族は」					
全体的評価	幸福・順調	みんな元気でやってきた・楽しくわくわくする日々・順調に来たと思う	20	19	25.6
	平穏・無事	おおきな病気をしていない・大過なくすごしている・和やかである	21	12	26.9
	不幸・波乱	けんかが多かった・震災にあたり色々谷や嵐がありました。出来ればもうこれ以上いやです	6	22	7.7
	共同	よく助け合ってきた・何をするのも一緒にでした・共に過ごす時間が多かった	10	10	12.8
	行動・性格的特性	がんばってきた・真面目にコツコツと生きてきた・常識的に生きてきた	7	15	9.0
	平凡	良くもなく悪くもなく普通・平凡にくらしてきて・普通に暮らしてきた	5	4	6.4
	不定・不明	いろいろありました・ぜいたくだった・何でしょう	0	7	0.0
家族関係	否定的関係・分離	互いを理解していなかった・船乗りの主人はお金を入れるだけ私は子育てをするだけの2年間でした	5	19	6.4
	役割関係	子ども達が小さい間は親だったけど皆大人になってしまったから今は友達か仲間やね・女が有利になった事はない	1	5	1.3
	自己との関係	私としたい話をしなかった・わたしたしを見捨てなかった・わたしたしを支えてくれた	0	5	0.0
生活・居住形態	—	6人でした・日本にずっといました・五人	4	14	5.1
生活の変化・期待	—	お墓に行くまでとても遠いので家の近くに移そうかと考えている・これからもずっと変える事なく何かあると助け合っていけると思う	3	5	3.8
その他	—	洞くつ暮らし・白	0	2	0.0
無記入	—	—	4	7	5.1

*p < .05 ***p < .001

表6 家族の適応性項目の回答の分類と度数 (%)

上位カテゴリー	下位カテゴリー	項目：「家のくらし」		回答例		回答数		%	
		既婚群	未婚群	既婚群	未婚群	既婚群	未婚群	既婚群	未婚群
生活の評価	安定・快適	は安定している・はまあまあ楽しい・は十分に満足している				38		68	
	不安・困苦	は大変だ・は年金問題等で少し不安です・すこしつらい				22		24	
生活様式・行動	中立的・平均的	状態は普通・はほぼ平均的である・は中の下ぐらいに思っている				16		17	
	—	猫と仲良く暮らしている・妻がいてのでスキヤキをたべている・ねとぼっか				12		23	
精神的意味	—	があるから心の安定が得られているのかな・を通していろいろなことを学びました・は孤独				4		24	
	—	なんとかやっていっているから苦しい・を快適にするにはかなりの努力が必要である				4		4	
生活維持	—	は苦しくない・は不自由はない・はあまり充実していない				18		9	
	否定※	は今が一番きついかもしれない・はいつもとても楽しい・は体がだるいせいか毎日がしんどい				13		1	
常時・変化※	—	がもっと良くないかと思う・家族が健康であってほしい・楽になりたい				5		4	
	—	はリラクゼーションベンチ・ぶり・方を参考にする奴はどーかと思う				0		4	
その他	—	—				0		2	
	無記入								
生活環境	経済面	項目：「わたしの家族が困っているのは」				18		52	
	環境・安全面	お金がないこと・住宅ローンへんまい・父の会社にリストラが多いことだ				8		16	
家族自体	家族成員 (ベツトを含む)	子供部屋がない・虫が嫌い・家に人がいない時間が多い				20		27	
	家族関係	祖母のわがまま・子供の仕事のこと・考太の世話である				5		13	
問題の存在	—	なかなか集まれない・自我が目だめた子供達にどう接するのかがむずかしい・価値感の違い				29		21	
	—	様々な現実・何でしょう？・今は子供達も無事就職し特にナシ				2		2	
願望※	—	もう少し余裕のある生活がしたい・主人は腰痛母は背中が痛い健康に気をつけて欲しい				0		6	
	—	いやだ・いいことがないからである・助ける				1		2	
その他	—	—							
	無記入								

※付加的カテゴリー $p < .05$ ** $p < .01$

表7 家族の凝集性項目の回答の分類と度数 (%)

上位カテゴリー	下位カテゴリー	項目：「家族と過ごす時間」		回答例		回答数		%	
		既婚群	未婚群	既婚群	未婚群	既婚群	未婚群	既婚群	未婚群
時間の有無	時間の持てなさ	は年々減る・はそれほど多くない・は十分にとれてない				26		56	
	時間の長さ・頻度	は比較的良い・は多い方・最近ほとんど一日中です				12		12	
体験・意味	個々人の時間	は一般の方と同じであり私は別の時間が多いだけ・は大事だけど自分の時間も大事				8		1	
	—	気を使う事もなく家で居られる・ふくざつ・は嫌いではない				37		69	
過し方	—	思い思いにしたし事を過ごしている・の半分は寝ている・は食事のときがほとんどだ				17		10	
	—	この年だからこそ一緒にいる時間を大切にしたい・がもう少しあればと思います				15		14	
願望※	—	—				0		0	
	無記入								
行動内容	外出・遊び	項目：「家族でいっしょに」				50		73	
	—	どこへでも行く・旅行に行く。来年は海外を予定・食事に行く				27		48	
機会の有無	日常生活の行動	健康にすぎず・食事します・酒を飲む				10		24	
	機会の持てなさ	ごはんをたべることがめったにない・よく温泉に行きましたがここ2年間は行けていません				13		11	
意味	体験・感情	いつまでも笑っていない・すぎず時間は大切・遇せるのは幸せだ				53		68	
	—	旅行に行きたい・しゃべりたい・ずう～といたい				0		2	
その他	—	死ぬならギフがいい・無理心中				1		3	
	無記入								

※付加的カテゴリー $p < .05$ ** $p < .01$

表 8 家族の同一性項目の回答の分類と度数（%）

項目：「わたしの家族はみんな」		回答例		回答数		%	
上位カテゴリー	下位カテゴリー			既婚群	未婚群	既婚群	未婚群
家族成員の属性	肯定的特性	ユーモアがあっておもしろい・明るい性格で元氣だ・人情的である		35	28	44.9	21.2
	中立・否定的特性	真面目すぎる位真面目な事・ずるが正しい部分があります・普通だ		5	30	6.4	22.7
	趣味・所有物・身体面	阪神ファンです・運転免許を持っている・私以外はいかり肩だ		7	26	9.0	19.7
	健康	健康である・とりあえず健康である・元氣である		11	1	14.1	0.8
関係性	拡散・独立志向	別に共通項などない・ばらばらかな・悪い思いの生活をすごしている		11	26	14.1	19.7
	凝集性・コミュニケーション	互いを必要としている・良く話しはします・仲が良い		6	22	7.7	16.7
生活状況	感情	どうしても夫婦だけなのでわかりませんが夫が良い人で幸せです・好きだ・大事		3	8	3.8	6.1
	生活様式・行動	それぞれに学校のクラブに頑張っている・たばこをすう・笑っている		13	13	16.7	9.8
願望※	—	幸せになって欲しい。幸せであって欲しい		0	1	0.0	0.8
その他	—	生きています・名字が同じだ・人間です		1	5	1.3	3.8
無記入	—	—		0	4	0.0	3.0
項目：「わたしの家族のことを人は」							
評価	肯定的評価	幸せそうだという・おもしろいという・とてもたのしい家族だと思います		26	55	33.3	41.7
	中立・両面的評価	かわっているという・まじめで地味で堅い一家と思っているでしょう・よく外食するねという		8	15	10.3	11.4
	羨望・尊敬	うらやましいと思っているらしい・うらやましがる・尊敬している…のでは！？		8	7	10.3	5.3
	否定的評価	ダメだと言う・しんどいと言う・仲が悪いと思ってる？		3	5	3.8	3.8
無関心・無知	—	なんとも思っていないだろう・あまり関心ないと思う・深くは知らないと言う		6	20	7.7	15.2
不明	—	何と言っているだろう・どう思っているとかは考えないようにしています・何と言うが気にしない		26	25	33.3	18.9
評価理由※	—	何の悩みもなくうらやましいと言っているいい家族ネと言っただけです。それは人にも同じ気持ちだからです		4	0	5.1	0.0
願望※	—	どう思っているのか知りたい・どう思っているかわからない知りたいくもない		3	1	3.8	0.8
その他	—	人情的だね・名前と呼ぶ・一億三千万人の5人と思うだろう		3	5	3.8	3.8
無記入	—	—		2	5	2.6	3.8

※付加カテゴリー

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

上位カテゴリーは、5カテゴリーに分類され、「行動内容」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「外出・遊び」「願望」は50%以上、「日常生活の行動」は30%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「願望」は既婚群の方が回答の比率が高かった。

9. 家族の同一性 (表8)

①項目：「わたしの家族はみんな」

上位カテゴリーは5カテゴリーに分類され、「家族成員の属性」「関係性」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「肯定的特性」は20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「肯定的特性」「健康」は既婚群の方が回答の比率が高く、「中立・否定的特性」は未婚群の方が高かった。

②項目：「わたしの家族のことを人は」

上位カテゴリーは6カテゴリーに分類され、「評価」はさらに下位カテゴリーに分類された。既婚群、未婚群を合わせ「肯定的評価」は30%以上、「不明」は20%以上の回答数であった。

既婚群と未婚群の比較では、「不明」「評価理由」は既婚群の方が回答の比率が高かった。

IV. 考察

1. 各次元・各項目における回答の分類と既婚群・未婚群の比較

①家族・家庭と自己との関係の次元：

「家の人はわたしに対して」と「わたしは家の人に対して」の両項目については、できるだけ共通のカテゴリー分類を試みたが、この両項目については、ともにカテゴリー数が多くなりすぎないように配慮した結果、例えば下位カテゴリーの「支持・受容・肯定的態度」や「依存・期待」というように単独の概念でカテゴリーの名称を示すことができず、複数の類似した概念を併記する形になっている。「支持・受容・肯定的態度」であれば、例えば「愛情の直接的表現」という概念でカテゴリー化できる可能性があるが、「愛情」という概念によって意味が複雑化することもあり、複数の概念の併記をする形を取った。SCTの他の項目と比較しても、「家の人はわたしに対して」と「わたしは家の人に対して」の両項目では、回答の示す内容が多様であり、カテゴリー化することが困難であった。それは、「両価性・不定」というカテゴリーを設定したことによっても示されている。従って、これらの2項目において、家族イメージにおけるカテゴリー化しづらい個別性が表現されやすいと考えられる。

「家の人はわたしに対して」の項目では、「支持・受容・肯定的態度」の回答数が半数以上を占め、そのような態度が自己と家族との関係のイメージにおいて基礎的側面となる、あるいは意識の前面に表れやすいことが示された。但し、逆に半数近くは、家族と自己との関係を「支

持・受容・肯定的態度」として表現せず、複雑で不明確な表現をしていることも同時に示された。

既婚群と未婚群の比較においては、「わたしは家の人に対して」の項目においてのみ「関心のあり方」の4下位カテゴリーで有意差が見られたが、これらは親の立場と子の立場による差が要因であると考えられる。家族から自己への関心のあり方ではなく、自己から家族への関心のあり方において、立場の違いが明らかになるというのは興味深い結果である。これは、家族と自己との関係の次元において、「自己から家族」と「家族から自己」という方向性に注目すべきであることを示唆している。

「家の外にいるとき」の項目の回答においては、家族・家庭を離れた個人としてのあり方が表現されている。解放感、他者を意識して変化すること、家の外での活動に関する回答数が多いが、これらは、逆の面を考えると、家族・家庭の内では、束縛、他者性を意識しない関係、個人としての活動が抑制されていることと表裏の関係にあることになる。既婚群と未婚群の比較においては、既婚群において、家庭外での「複数の活動」と「家とのつながり」に意識が向きやすいことが示された。未婚群よりも、既婚群の方が家族生活の維持に責任を持っているために、家を離れた時に自由に振る舞おうと活動的になるが、家のことも気になるという見方が可能である。

「家族のためにわたしは」の項目においては、「尽力」に関わる回答が多くを占め、逆に「不定・無為」に関わる回答は少数であった。「～したい」という「願望」を示す回答の割合が20%以上と高く、家族から受けている期待や支持に応えようとする欲求が表れたと考えられる。既婚群と未婚群の比較においては、未婚群で「不定・無為」の回答が高く、未婚群の家族における役割の不明確さ、青年期であるがゆえの家族からの心理的分離が関わっていると考えられる。

②家族の関係・構造の次元：

「結婚」の項目では、未婚群でのみ「結婚願望」の回答が多く、既婚群では、回答のカテゴリーが分散する傾向が見られた。既婚群と未婚群の比較においては、「身内・他者の結婚」、(結婚生活の)「中立的・両価的評価」「肯定的評価」、「結婚生活歴」は既婚群が高く、「結婚願望」「結婚の否定」は未婚群が高かったが、「結婚」の項目では結婚の経験によるイメージの差が顕著となった。

「夫婦」の項目では、「肯定的関係」「関係の意味」の回答が既婚群未婚群ともに多かったが、「生活状況」においては既婚群の方が回答の比率が高かった。先の「結婚」の項目に比較すると、「夫婦」の項目では、既婚群と未婚群の差が顕著とは言えない。「夫婦」のイメージは、結婚経験の有無によって大きく変化するものではないと考えられる。

「子育て」の項目では、「困難・苦労」の回答が多かったが、特に未婚群の比率が高く、親の立場での子育てを経験していないことで、子育てが大変であるというイメージがかえって強

まっていると考えられる。既婚群では、「子どもの成長」の回答の比率が高かったが、子育ての経験により、子どもの成長に目が向きやすくなると考えられる。

「わたしの先祖」の項目では、「社会的・身体的属性」「不明」の回答が多く、未婚群では、「想像・曖昧さ」の回答も目立った。先祖の存在は、属性として知っていることについての回答もあるが、「よく知らない」「考えたことがない」という回答も多く、不明確なイメージをもたれている場合がかなりあると言える。既婚群で「情緒的意味」の比率が高くなっているのは、結婚家族における経験が、祖先や世代間のつながりの意味を意識させる要因となっていると考えられる。

③家族成員の役割・イメージの次元：

「わたしの親」の項目では、既婚群、未婚群ともに「関係」の回答が多かったが、「年齢・生死」「願望」は既婚群の方が回答の比率が高く、「親の性格・属性」は未婚群の方が高かった。親の属性でも既婚群では、「年齢・生死」という存在自体の基本的属性に目が向きやすいことが特徴的である。また親に対する「～したい」という願望が高くなるのも既婚群の特徴で、年齢的に親をサポートしたいと考える時期になっていることがその要因であるかもしれない。

「妻」「夫」の項目は、同様のカテゴリーを設定したが、回答傾向については、共通点、異なる点が表れた。共通点としては、「妻（夫）役割」の回答数が多いこと、「存在」「願望」はともに未婚群の方が回答の比率が高いことである。後者は未婚群では「妻（夫）が欲しい」という回答が多くなったためである。「妻」「夫」の項目で異なる傾向を示したのは、妻の「役割」に関する「評価」の回答の比率は既婚群の方が高かったが、「夫」では差がなかったこと、「夫役割」の回答の比率は未婚群の方が高かったが、「妻役割」では、むしろ既婚群の方が高い傾向があったことなどである。既婚群においては、妻役割が意識されやすい一方で、夫役割ではむしろ未婚群の方が意識する傾向があると考えられる。

「夫役割」「妻役割」に関する回答は、既婚か未婚だけでなく、性別によっても回答傾向が異なることが予想されるが、今回はサンプリングの問題もあり性別による分析は行わなかった。また、「妻」の項目においては、既婚群で「無記入」が10%を超え、回答に対する抵抗が表れる傾向が示された。

「わたしのきょうだい」の項目は、「わたしの親」の項目におけるカテゴリー分類と類似しているが、「役割」のカテゴリーが「わたしのきょうだい」にはないことが、項目の特徴を示している。回答傾向は、「存在」の回答数が多く、どのカテゴリーでも既婚・未婚による差は見られなかった。きょうだいには、特定の役割をイメージすることは少なく、未婚・既婚に関わらずイメージは変化しない傾向があると考えられる。

④家族の意味・価値観の次元：

「わたしにとって家族は」の項目では、「重要性」のカテゴリーに回答が集中しており、既婚群と未婚群の差も認められなかった。下位カテゴリーの「重要性」を表す回答内容をさらに下

位分類することも可能であり、その場合は重要性を強調するための表現形式の分類となることが予想された。「重要性」の回答に集中していることは、この項目が多様な回答を引き出す点で問題があることを示す結果であった。

「わたしの家族にとって大切なのは」の項目では、既婚群、未婚群とも「関係性」の回答が30%以上を占め、成員同士の関係に家族の価値が置かれる傾向が示された。既婚群では「身体・健康」に価値を置く回答の比率が未婚群よりもかなり高く、この点で既婚群と未婚群の家族における価値観の違いが表れている。それに対応するように、未婚群では「物質・時間」の回答比率が高い。

「もし、わたしの家族が」の項目では、「否定的事態」に対する「当惑・不明」の回答が多く、この項目が否定的な事態を連想させ不安を喚起させる傾向があることが示された。また、この項目においては、既婚群で「無記入」が10%を超え、回答に対する抵抗が表れている。未婚群では、「否定的事態」に対する「予想される結果」の回答の比率が既婚群よりも高く、未婚群の方が不幸な結果であってもそれを言語化する傾向があることを示している。特に既婚群にとっては、家族における否定的事態は、想像するにも強い抵抗が生じ、回避的になると言える。

⑤家族に関する時間的展望の次元：

「わたしの家族は、今後」「今まで、わたしの家族は」の両項目とも下位カテゴリーが多く設定されたが、両項目においては、多様な回答であってもカテゴリーに分類しやすい形で表現される傾向があった。

「わたしの家族は、今後」の項目では、「縮小的変化」の回答が多く、家族は将来的に拡大するよりも縮小するイメージが持たれる傾向があることが示された。調査協力者の家族が出産を控えている場合は、拡大的に変化するイメージが持たれると予想されるが、今回の調査では、縮小的変化をイメージしている協力者が多かった。また、「肯定的感情」の回答は既婚群の5%に対して未婚群は0%であり、未婚群が原家族の将来に対して、肯定感情を示すことが稀であることが示された。

「今まで、わたしの家族は」の項目では、回答の偏りはなく、多様な回答に分散する傾向が見られた。「幸福・順調」「平穏・無事」の回答の比率が既婚群の方が高かったが、今回の調査における既婚群では、安定した家庭生活を送っている場合が多いことが予想され、平均的な家族よりも比率が高かった可能性がある。また、既婚群の方が、過去の家族の生活を安定していたと考えやすいという要因も一方で考えられる。

⑥家族の適応性の次元：

「家のくらし」の項目では、「安定・快適」の回答が50%近くあり、突出して多い傾向が見られた。既婚群と未婚群の比較では、「情緒的意味」の回答の比率が未婚群の方が高く、未婚群では「家のくらし」から、内面的な意味にまで連想される傾向が示された。

付加のカテゴリーとして、回答に否定文の形を取るものが顕著であったため「否定」を設定

したが、「常時・変化」とともに既婚群の回答の比率が高くなった。既婚群の方が家庭生活を長期的な視点で考える傾向があるために「常時・変化」の回答が多くなった可能性がある。一方、既婚群における「否定」の回答が多くなった要因については、様々な可能性が考えられる。この項目においては、上位カテゴリーである「生活の評価」への回答が大半を占めており、それは「安定・快適」「不安・困苦」「中立的・平均的状态」の3下位カテゴリーに分類されているが、項目への回答に際し、生活の評価に揺れが生じやすいことが「否定」の回答となって表れているのかもしれない。そのため、既婚群の方が、家庭生活の評価が揺れやすいという要因が考えられる。

「わたしの家族が困っているのは」の項目では、「経済面」「問題の存在」の回答が多かったが、「経済面」では特に未婚群の回答の比率が高く、「問題の存在」で特に既婚群の方が高かった。今回の調査で、未婚群は私立大学生を対象としているため、家族から学費の援助を受けていることが気に掛かっていることも要因の一つとして考えられる。一方「問題の存在」は、「特になし」や「様々な現実」という回答のカテゴリーであり、家族に困っている問題がないとするか、あるいは個別の問題を表さない傾向は既婚群の方が高いと言える。

⑦家族の凝集性の次元：

「家族と過ごす時間」の項目では、「体験・意味」の回答が多く、家族と過ごす時間について多様な意味を感じやすいことを示す結果であった。「時間の持てなさ」の回答も多く、家族が集まることの困難さが示されている。「個々人の時間」「過ごし方」の回答の比率は、既婚群の方が高かったが、「個々人の時間」は家族と過ごす以外の時間の活動を重要視する姿勢の表れと考えられる。一方の「過ごし方」は、既婚群の方が家族とともにどのように過ごすかということ意識していることによると考えられる。

「家族でいっしょに」の項目では、「外出・遊び」「願望」の回答に集中する傾向が見られ、回答に多様性が表れなかった。家族といっしょに何かの活動をしたい、という「願望」の回答は、既婚群と未婚群の両方とも高い比率であるが、既婚群の方が比率が高く、家族の凝集性への欲求が表れている。

⑧家族の同一性の次元：

「わたしの家族はみんな」の項目では、家族成員の「肯定的特性」への回答が多く、特に既婚群でその比率が高かった。「健康」の回答も既婚群の方が高かった。逆に「中立・否定的特性」は未婚群の方が回答の比率が高かった。家族イメージの深いレベルでの同一性が表現される場合を予想していたが、回答内容からは、比較的表層的な家族成員の共通性が表現されたという印象である。特に、既婚群の方が、「肯定的特性」や「健康」という受け入れやすい共通特性を家族の同一性とする傾向があると言えるだろう。

「わたしの家族のことを人は」の項目では、「肯定的評価」と「不明」の回答が多く、特に「不明」は既婚群の方が比率が高かった。この項目は、家族に対する他者からの評価とともに、家

族の外観のイメージにも関連すると考えられる。既婚群では、「不明」の回答の比率が高かったため、他者から見える家族の外観のイメージには関心が向かない場合が多いと考えられる。

2. 今後の課題

本研究においては、SCTの各項目に対する2～3の回答の典型例を結果の表中に示しているが、カテゴリーの設定と、個々の回答がどのカテゴリーに含まれるかという判断については、今後もその妥当性と問題点を検証する必要がある。また、一つの回答であっても、複数のカテゴリーに属する回答が多数見られたが、本研究では、個々のカテゴリーの度数の分析にとどまっており、複数のカテゴリーに属する複雑な回答を取り上げていない。家族イメージの複雑な側面、個別性の表れは、典型例ではなく、そのような複雑な回答、分類が困難な回答にこそ表れているため、それらの回答を取り上げた分析が必要である。

本研究においては、一部のカテゴリーへの回答が偏り回答に多様性が見られなかった項目として、家族の意味・価値観の次元に関わる「わたしにとって家族は」の項目と、家族の凝集性の次元に関わる「家族でいっしょに」の項目が挙げられる。項目のワーディングに関して改善の余地が示されている。

本研究は、家族イメージのSCTにおける個々の項目の回答内容の分類と出現頻度を検討しているが、個人ごとの複数の項目における回答の傾向については検討できていない。つまり、本研究は、個人の家族イメージの全体像について検討する研究となっておらず、個人ごとの各項目に対する回答間の関連については、今後検討する必要がある。

〔引用文献〕

- 東洋・柏木恵子・繁多進・唐澤真弓（2002）親子関係診断検査 日本文化科学社
- 馬場禮子（1990）家族の心理臨床 鏑幹八郎・馬場禮子（編）家族と社会（臨床心理学体系4）金子書房 pp.1-39.
- Beavers, W.R., & Voeller, M.N., Family model (1983) Comparing and contrasting the Olson circumplex model with the Beavers systems model. *Family Process*, 22, 85-98.
- Bloom, B.L. (1985) A factor analysis of self-report measures of family functioning. *Family Process*, 24, 225-239.
- 日比裕泰（1986）動的家族描画法（K-F-D）－家族画による人格理解－ ナカニシヤ出版
- 平田裕美（2003）青年期前期の子どもに対する父親の関わり－分類と特性－家族心理学研究, 17, 1, 35-54.
- 五十嵐敦（1989）青年期の家族展望－登校拒否にみられる家族ライフサイクルの問題－ 日本家族心理学会（編）家族心理学年報7, pp.197-216.
- 亀口憲治（2001）家族システムの記述 臨床心理学, 1, 4, 476-482.
- 加藤孝正（1986）動的家族画（KFD） 家族画研究会（編）臨床描画研究Ⅰ 金剛出版 pp.87-103.
- 河合隼雄（1980）家族関係を考える 講談社現代新書
- 川喜多二郎（1970）続・発想法－KJ法の展開と応用 中公新書
- 河村照美（2002）大学生における親からの期待に関する研究－面接・動的家族画をめぐって－ 家族心理

学研究, 16, 2, 95-107.

水島恵一・岡堂哲雄 (1980) 「図式投影法」の総合的研究 I - 目的・方法・成果の概観 教育心理学会第 22 回総会発表論文集, 584-585.

尾形和男・宮下一博 (2000) 父親の協力的関わりと子どもの共感性および父親の自我同一性 家族心理学研究, 14,1,15-28.

Olson, D.H., Sprenkle,D.H., & Russell,C.S. (1979) Circumplex model of marital and family systems: Cohesion and adaptability dimensions, family types, and clinical applications. *Family Process*, 18, 1, 3-28.

Olson, D.H., Russell, C.S., & Sprenkle,D.H. (1983) Circumplex model of marital and family systems: IV , Theoretical update. *Family Process*, 22, 69-83.

Persons,T. & Bales, R.F. (1956) Family: Socialization and interaction process. Routledge. [パーソンズ,T・ペイルズ,R.F. 橋爪貞夫, 他 (訳) 核家族と子どもの社会化 黎明書房]

佐藤宏平 (2001) 家族アセスメントの現在 臨床心理学, 1, 4, 468-475.

茂木千明 (2001) 健康な家族機能に対する評価－セラピストと家族の比較－ 家族心理学研究, 15,2,109-123.

鈴木浩二 (1971) 家族ロールシャッハ法の歴史と将来 ロールシャッハ研究, 13, 179-193.

立木茂雄 (1999) 家族システムの理論的・実証的研究－オルソンの円環モデルの妥当性の検討 川島書店

渡辺さちや (1989) 青年期における家族機能－凝集性を中心に－ 日本家族心理学会 (編), 家族心理学年報 7 pp.145-158.

(あらい しんたろう 臨床心理学科)

2011 年 10 月 20 日受理

